

科目名 【英】	キャリアデザイン講座1 Career Design 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15時間	単 位	1単位
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	1・2

担当教員	工忠憲正・岩本ミカ	実務者経験	
------	-----------	-------	--

学習内容	・「話す」「聞く」「書く」が一通りできるように学ぶ。 ・マナー&コミュニケーション単元ではグループワークを通じて、社会人になった際に『使えるマナー・コミュニケーション』を学ぶ。 ・今までのキャリアを振り返り、今後のキャリアをデザインする。
到達目標	・社会人として、また職業人として生きるためのスキルを身につけるとともに、実践的な場面でそれらを活用、さらには応用して用いることができるようになる。 ・自らのキャリアをデザインすることができる。

準備学習 時間外学習	次回の学習内容についての予習が必要。授業内で扱った内容の復習をする。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	本講義は、実習を交えた授業を実施するため、毎回積極的な参加が求められる。

成績評価	提出物（10%） 授業態度（積極的な発言等）（20%） 課題評価（70%）【各現段階予定】
------	---

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		【工忠】 オープニングプレスト	これからの社会がどのように変わっていくのか、その社会を生き抜くためにどのようなスキルを身に付けなければいけないか学ぶ。プレストを通して、自分の考えを自由に話すことができる。
2		【岩本】 マナー①	マナーの基本を身に付ける。「挨拶」「身だしなみ」「お辞儀」「前傾姿勢」「敬語」について学び、自己紹介ができる。
3		【岩本】 マナー②	これからの社会がどのように変わっていくのか、その社会を生き抜くためにどのようなスキルを身に付けなければいけないか学ぶ。プレストを通して、自分の考えを自由に話すことができる。
4		【工忠】 アサーション	アサーションについて学ぶ。アサーティブな状態で相手と接する話し方ができる。
5		【工忠】 傾聴スキル	傾聴スキルの基本を学ぶ。相手に対して好意的関心をもち、安心して話してもらえる聞き方ができる。
6		【工忠】 伝え方①	話し方の方法としてパートホール法を学ぶ。それを用いて自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
7		【工忠】 伝え方②	話し方の方法としてPREP法を学ぶ。それを用いて自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
8		【工忠】 文章読解①	ABD読書法を用い、1冊の本を複数で分けて読む。書かれてある文章を読み取り、その要点を簡潔にまとめることができる。
9		【工忠】 文章読解②	前回読み取りまとめたものを使ってプレゼンを行う。今までに学習してきたことを活かし、分かりやすく伝えることができる。
10		【工忠】 伝え方③	パートホール法やPREP法を用いて今後の抱負を1分で話す。限られた時間の中で、自分の思いを伝えることができる。
11		【工忠】 文章の書き方	テーマに沿って自分の考えを書く。自分の伝えたいことの要点をまとめて正しい文章を書くことができる。
12		【工忠】 ディベート①	ディベートに向けての準備を行う。自分の意見をまとめるとともに、その根拠を明確にすることができる。
13		【工忠】 ディベート②	ディベートを行い、自分の考えを述べる。自分の考えを分かりやすく伝えることができる。また、自分と立場の違う人の考えを聞き、それに対する自分の考えをもつことができる。
14		【工忠】 キャリアデザイン①	ライフラインを描き、今までの生き方を振り返る。また、ジョハリの窓ワークを行い、より自己開示ができるようにする。
15		【工忠】 キャリアデザイン②	スーパーのキャリアライフラインボーにおける自分の役割を考える。また、社会人基礎力がいかに身に付いているかを知る。

科目名 【英】	キャリアデザイン講座1 Career Design 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15時間	単 位	1単位
学 年	1	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	工忠憲正・岩本ミカ	実務者経験	
------	-----------	-------	--

学習内容	・「話す」「聞く」「書く」が一通りできるように学ぶ。 ・マナー&コミュニケーション単元ではグループワークを通じて、社会人になった際に『使えるマナー・コミュニケーション』を学ぶ。 ・今までのキャリアを振り返り、今後のキャリアをデザインする。
到達目標	・社会人として、また職業人として生きるためのスキルを身につけるとともに、実践的な場面でそれらを活用、さらには応用して用いることができるようになる。 ・自らのキャリアをデザインすることができる。

準備学習 時間外学習	次回の学習内容についての予習が必要。授業内で扱った内容の復習をする。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	本講義は、実習を交えた授業を実施するため、毎回積極的な参加が求められる。

成績評価	提出物（10%） 授業態度（積極的な発言等）（20%） 課題評価（70%）【各現段階予定】
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		【工忠】 オープニングプレスト	これからの社会がどのように変わっていくのか、その社会を生き抜くためにどのようなスキルを身に付けなければいけないか学ぶ。プレストを通して、自分の考えを自由に話すことができる。
2		【岩本】 マナー①	マナーの基本を身に付ける。「挨拶」「身だしなみ」「お辞儀」「前傾姿勢」「敬語」について学び、自己紹介ができる。
3		【岩本】 マナー②	これからの社会がどのように変わっていくのか、その社会を生き抜くためにどのようなスキルを身に付けなければいけないかを学ぶ。プレストを通して、自分の考えを自由に話すことができる。
4		【工忠】 アサーション	アサーションについて学ぶ。アサーティブな状態で相手と接する話し方ができる。
5		【工忠】 傾聴スキル	傾聴スキルの基本を学ぶ。相手に対して好意的関心をもち、安心して話してもらえる聞き方ができる。
6		【工忠】 伝え方①	話し方の方法としてパートホール法を学ぶ。それを用いて自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
7		【工忠】 伝え方②	話し方の方法としてPREP法を学ぶ。それを用いて自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
8		【工忠】 文章読解①	ABD読書法を用い、1冊の本を複数で分けて読む。書かれてある文章を読み取り、その要点を簡潔にまとめることができる。
9		【工忠】 文章読解②	前回読み取りまとめたものを使ってプレゼンを行う。今までに学習してきたことを活かし、分かりやすく伝えることができる。
10		【工忠】 伝え方③	パートホール法やPREP法を用いて今後の抱負を1分で話す。限られた時間の中で、自分の思いを伝えることができる。
11		【工忠】 文章の書き方	テーマに沿って自分の考えを書く。自分の伝えたいことの要点をまとめて正しい文章を書くことができる。
12		【工忠】 ディベート①	ディベートに向けての準備を行う。自分の意見をまとめるとともに、その根拠を明確にすることができる。
13		【工忠】 ディベート②	ディベートを行い、自分の考えを述べる。自分の考えを分かりやすく伝えることができる。また、自分と立場の違う人の考えを聞き、それに対する自分の考えをもつことができる。
14		【工忠】 キャリアデザイン①	ライフラインを描き、今までの生き方を振り返る。また、ジョハリの窓ワークを行い、より自己開示ができるようにする。
15		【工忠】 キャリアデザイン②	スーパーのキャリアライフラインボーにおける自分の役割を考える。また、社会人基礎力がいかに身に付いているかを知る。

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 2 Course of career Design 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	尾崎貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	------	-------	---

学習内容	医療系学生としての目標の設定、日々の過ごし方、また医療人としての心構えや、社会に向けての心構え意識付け、一流の選手の考え方や行いを、座学やセッションを通して学ぶ。
到達目標	医療系学生として、どこに出しても恥ずかしくないレベル、かつ卒業後社会人として即活躍できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	その日の授業を、帰宅後の振り返りやワークで未完成な部分を完成させる。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		メンタル導入部	考え方やメンタルの重要性に気づき、今後の授業に役立てる。
2		目的、目標セット	個人の目的、目標を明確にし、日常生活のあり方に役立てる。
3		メンタルブレイントレーニング 1	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
4		メンタルブレイントレーニング 2	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
5		メンタルブレイントレーニング 3	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
6		勉強の仕方 1	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。
7		勉強の仕方 2	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。
8		経営者の知識	独立開業に当たってのお金と経営に関して、その関係性と意味を学び、経営には何が必要かを説明できる。
9		柔道整復師の仕事について	自分になろうとしている、柔道整復師とはどんな仕事をするのかを画像を踏まえながら創造し、自分になりたい柔道整復師像を具体的に説明できる。
10		スポーツエンタメトレーナー 1	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーとはどんな仕事をするのかを説明できる
11		スポーツエンタメトレーナー 2	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる
12		スポーツエンタメトレーナー 3	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる。
13		一般手技療法 1	後療法で必要な基礎的な手技療法を行う事が出来る。
14		一般手技療法 2	後療法で、足を手技療法で施術できることが出来る。
15		一般手技療法 3	後療法で、臀部を手技療法で施術できることが出来る。

科目名 【英】	コンディショニングトレーナー講座 1 Course of Conditioning Trainer Skill			必修/選択	必修	授業形式	講義・実技
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	1・2

担当教員	小西 達也	実務者経歴	1998～2004整形外科・整骨院勤務 2005から開業（評価・施術・柔道整復術・リハビリテーション指導）スポーツ現場（陸上競技）
------	-------	-------	---

学習内容	スポーツ選手やスポーツに関わる人たちにに対して対応できる知識・技術を学ぶ 知識としては「コンディショニングとは」「トレーナーとは」「トレーニング科学」を学ぶ 技術としては「ラダードリル」「ウォーミングアップドリル」などを学ぶ 後期は「足関節捻挫」「筋肉膜性（姿勢不良）腰痛」「肩関節周囲」へのリコンディショニングの基礎を学ぶ
到達目標	医療人として患者や選手に対応出来るように、まずは自分自身が基本的なトレーニング方法の見本が見せられるようになる。「ラダードリル」「ウォーミングアップドリル」を実演出来るようになる。後期ではリコンディショニングで必要な見本を見せてアドバイス出来るようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・関節・筋肉名）生理学（体温・神経・呼吸）を読んでおく 出来る範囲で運動・トレーニングを行うようにしておく
使用教材	配布プリント 板書 口頭説明
留意点 備 考	副教材として「解剖学」「生理学」「運動学」を用意しておく 他に「図解四肢と脊椎の診かた」「肉単」「SAQトレーニングDVDブック」

成績評価	実技１００％ 筆記試験１００％ である どちらも合格することが必要
------	-----------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	5/12	授業ガイダンス・実技 w-up@実技室	授業の約束事（服装・礼儀・言葉使い）・テストについて アンケート記入 実技①その場ウォームアップ（座位・立位）
2	5/19	理論 コンディショニングとは	「コンディショニングとは」を考える 理論 と 実技
3	5/26	理論・実技 姿勢 @柔道場J	全ての動作の基本となる「姿勢」の大切さを知る 座位・立位・「姿勢」の乱れ・崩れは傷害の発生原因と関係あり
4	6/2	理論・実技 w-up1 @柔道場	ダイナミックフレキシビリティ（動的柔軟性）を高める（実技試験科目※予定） 姿勢の維持と股関節を中心とした下肢のドリル（その場を中心に）
5	6/9	理論・実技 体幹のTR1 @柔道場	「体幹」とは。「軸」「柱」「核」 姿勢の基本・動作の安定性・バランスを理解出来るようにする
6	6/16	理論・実技 w-up2 @柔道場	ダイナミックフレキシビリティ（動的柔軟性）を高める（実技試験科目※予定） 姿勢の維持と肩関節を中心とした上肢のドリル（その場を中心に）
7	6/23	理論・実技 柔軟性 @柔道場	関節の柔軟性について 全身関節柔軟（general joint laxity）のチェック方法と対策
8	6/30	理論・実技 アイシング @柔道場	アイシング icing について 自宅の水を利用して実体験も行う 熱中症について
9	7/7	理論・実技 体力とは @柔道場	体力について 基礎体力 フィットネスチェック
10	7/14	理論・実技 トレーニング原理原則 @柔道場	トレーニング training について 原理原則を理解する 効率の良いtraining方法を知る
11	7/21	実技試験練習	ダイナミックフレキシビリティ をまとめる
12	7/28	実技試験	ダイナミックフレキシビリティ １０種目を実演
13	8/4	実技試験	ダイナミックフレキシビリティ １０種目を実演
14	8/25	理論・実技 @柔道場	そのほかの実技のまとめ
15	9/1	まとめ	筆記試験対策 全ての配布資料・板書の確認
16			

科目名 【英】	医学英語 MEDICAL ENGLISH			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	
学 年	1	学 期	前期	曜 日		時 限	

担当教員	南 雅子	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	柔道整復師としておさえておきたい基礎医学英語(症状名、身体名、バイタル、骨、筋肉、組織、神経、血液、医療略語、病院各科)と整骨治療、スポーツトレーニングにおける専門用語や診療に使う表現などを学ぶ。
到達目標	医療従事者をめざす上で知っておきたい基礎医学英語を習得した上で、柔道整復におけるさまざまな診療表現などを使えるようにする。

準備学習 時間外学習	医学英語を学ぶ上での、人体や医療における基礎知識を医療や整骨の授業できちんと習得しておくことが望ましい。
使用教材	教科書『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育社) 教材プリント
留意点 備 考	実際の治療現場で使えるさまざまな英語資料の提供と使いかたの実践も行う。

成績評価	3回の発表と医療英単語の口頭試験を実施。 前期末試験75%+発表/口頭試験25%で評価する。
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	医学英語 1	授業内容の解説/柔道整復基礎用語/Ch. 1 受付の会話/英語の名刺/よく使う英会話表現 医学英語の概要を理解するを目標とする。	MA A~B
2	医学英語 2	柔道整復でよく使う症例名/Ch. 2 病院各科の名称、Ch. 3痛みの表現/発表(1) 英語の自己紹介 柔道整復治療において必ず知っておきたい症例名を理解できることを目標とする。MA C~D	
3	医学英語 3	Ch. 3 痛みの表現、人体名/ペインスケールの活用方/顔の名称/柔道整復関連用語(3) さまざまな痛みの英語表現とペインスケールを有効に使えるようになることを目標とする。	
4	医学英語 4	診療所の会話一受付、診察室(ペアワーク) Ch. 4 症状名/症状の表し方を学ぶ 整骨院の受付の会話、診察室での会話を練習する。	MA E~H
5	医学英語 5	発表(2) 診療所の会話一受付、診察室(ペアワーク) /Cha. 5, 6内臓の名称、問診に使う表現 整骨院での受付、診察室での会話を次戦で行うことができることを目標とする。 MA I~N	
6	医学英語 6	整骨治療におきえる原因、発症時の特定/Ch. 7内科診察室での英語/手指、足指関節の名称 治療に重要な原因や発生時の特定の行いかたのポイントをおさえることを目標とする。MA O~S	
7	医学英語 7	医療従事者の緊急時の英語/病院会話のヒント/CH. 9, 10 バイタルサイン、救急/痛みの特定 バイタルサインの習得。緊急時に必要な表現を使えるようにすることを目標とする。 MA T~Z	
8	医学英語 8	柔道整復の診療のための表現/病院会話のヒント/カルテ/CH. 9, 10 外科、検査 診療に必要な表現を使えるようになることを目標とする。 MA カルテ略語	
9	医学英語 9	骨の名称/CH. 12 整形外科、整骨院(用語 フレーズ リスニング)/Eメール お礼 お見舞の資料 整形外科、整骨院のリスニング練習により現場の英語になれることを目標とする。	
10	医学英語 10	関節可動域/膝靭帯/整骨院のリスニング練習/ch 13, 14 リハビリの用語、表現 可動域や膝靭帯の名称の習得、リハビリ用具や指示の言い方の練習をする。	
11	医学英語 11	柔道整復治療の会話(syクリプト提出)/会計、薬/診療のキーフレーズ 柔道整復治療の会話表現を各自考えて作成することによる理解の向上を目標とする。	
12	医学英語 12	発表(3) 柔道整復での会話/柔道整復で使える表現のまとめ/多言語問診票(英語以外の5カ国用) 柔道整復の治療の会話の発表をすることにより現場で使えることを目標とする。	
13	医学英語 13	口頭試験一柔道整復、医学英語関連用語/筋肉、骨の資料配布 柔道整復、医学英語の重要英単語の口頭試験による発話機会と定着を目標とする。	
14	医学英語 14	前期末試験対策学習(柔道整復、整骨院の診療用語語およびフレーズ医学英語、医療訳語など) 試験勉強を通して学習内容の復習を目標とする。	
15	医学英語 15	前期末試験返却、見直し/整骨院の問診票/柔道整復資料配布/スポーツトレーニングの英語 前期末試験の見直しと、整骨院やスポーツトレーニングで使える資料の解説指導をする。	
16			

科目名 【英】	基礎包帯固定学 1 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1 年生	学 期	前期	曜 日	水・木	時 限	1・2、3・4

担当教員	岩崎英明 、 姫将司	実務者経験	岩崎：1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。 姫：整形外科で2年、接骨院で2年実務経験を積む
------	------------	-------	---

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 アルミ副子、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	ペーパー試験100%、実技試験100%
------	---------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		導入 1	実技ガイダンス 包帯の巻取り
2		導入 2	包帯学を学び、説明できるようになる。
3		指の包帯 1	隻指帯が巻けるようになる。
4		指の包帯 2	全指帯が巻けるようになる。
5		指の包帯 3	指頭包か帯が巻けるようになる。
6		指の包帯 4	母指上行麦穂帯が巻けるようになる。
7		指の包帯 5	総指包か帯が巻けるようになる。
8		指の包帯 6	復習（これまでの包帯法を思い出し、名称を言われただけで目的の包帯法を行うことができる）
9		評価	中間評価、緊張感を持った状態で患者に巻くことができるレベルに近づけることができる。
10		手関節の包帯	手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。
11		樹脂副子 1	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。
12		樹脂副子 2	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。
13		総復習	隻指帯、全指帯、指頭包か帯
14		総復習	母指上行麦穂帯、総指包か帯、手関節上行麦穂帯
15		まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。
16			

科目名 【英】	基礎医学講座 1 Course of Basic Medicine 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	1. 2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	骨の各部位を3次元で知り、それぞれの骨の特徴を知り、そこに付着する筋肉を理解する。 骨の形状がなぜそのような形を取るのか理解する。
到達目標	スケッチ、模型の観察を通じて、部位、筋肉の起始停止、形状を説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の教科書を確認しておく。
使用教材	配布プリント、骨模型、色鉛筆
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実習の期末試験100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		骨学実習オリエンテーション	骨の特徴を触れて部位事の特徴を知る。 部位名称の特徴を説明できる。
2		上肢骨① 【上肢帯】	鎖骨・肩甲骨・上腕骨の部位を知り、スケッチを行うことで骨の形状を説明できる。
3		上肢骨② 【自由上肢】	橈骨・尺骨・手指骨・指骨の部位を知り、スケッチを行うことで骨の形状を説明できる。
4		上肢骨③ 【自由上肢】	手指骨・指骨の部位を知り、スケッチを行うことで骨の形状を説明できる。
5		上肢骨④ 【筋の付着】	上肢に付着する筋肉の起始停止を理解し、説明ができる。
6		下肢骨① 【下肢帯】	寛骨・大腿骨の部位を知り、スケッチを行うことで骨の形状を説明できる。
7		下肢骨② 【自由下肢】	脛骨・腓骨・足部を行うことで骨の形状を説明できる。
8		下肢骨③ 【筋の付着】	下肢に付着する筋肉の起始停止を理解し、説明ができる。
9		脊柱① 【椎骨の基本】	椎体の特徴を知る。頸椎・胸椎の部位を知り、スケッチを行うことで骨の形状を説明できる。
10		脊柱② 【腰椎・仙・尾椎】	腰椎・仙椎の部位を知り、スケッチを行うことで骨の形状を説明できる。
11		脊柱③ 【椎骨の部位】	椎骨の部位を知り、模型を使って説明できる。
12		頭部① 【頭蓋骨】	頭蓋の構成を知り、孔を通る神経・血管を説明できる。
13		頭部② 【孔を通る物】	頭蓋底を通るものを模型を使って説明できる。
14		確認作業	それぞれの骨について、模型を使って説明できる。
15		総まとめ	骨の基本構造から、多い骨折、疾患について説明できるようになる。

科目名 【英】	柔整基礎講座 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1 年生	学 期	前期	曜 日	木曜	時 限	1・2

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復師に必要な解剖生理の基本的な知識を取得する。
到達目標	解剖学をすきになり、生理学とリンクさせれるようにする。

準備学習 時間外学習	配布プリントを復習する
使用教材	解剖学 改定第2版
留意点 備 考	解剖学は図をイメージできるようにしましょう。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		解剖学用語 骨格系総論	解剖学用語・人体の区分 復習し説明できるようになる
2		解剖学概論 1	細胞内小器官 復習し説明できるようになる
3		解剖学概論 2	上皮・支持・筋組織 復習し説明できるようになる
4		解剖学概論 3	人体の発生・三胚葉 復習し説明できるようになる
5		解剖学コラム	人名のついた用語などを説明できるようにする
6		脈管系 1	脈管系総論 小循環・大循環 復習し説明できるようになる
7		脈管系 2	心臓の構造 1 復習し説明できるようになる
8		脈管系 3	心臓の構造 2 復習し説明できるようになる
9		脈管系 4	上行大動脈・ウイリス動脈輪 復習し説明できるようになる
10		脈管系 5	鎖骨下動脈の枝 上肢の動脈 復習し説明できるようになる
11		脈管系 6	胸大動脈・腹大動脈の枝 復習し説明できるようになる
12		内臓系 1	消化器系の構造 1 復習し説明できるようになる
13		内臓系 2	消化器系の構造 2 復習し説明できるようになる
14		内臓系 3	呼吸器系の構造 復習し説明できるようになる
15		総復習 4	生殖器の構造 復習し説明できるようになる
16			

科目名 【英】	柔整生理 A Physiology of Judo Therapy			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院で実務経験を積む
------	------	-------	---------------------------------------

学習内容	正常な人体機能（主に運動器系に関する）を学び、柔道整復について考える。
到達目標	1. 神経の基本的機能について説明できる。 2. 神経系の機能を説明することができる。

準備学習 時間外学習	授業終了時に次の授業範囲を伝えるので余裕があれば予習をしておくこと。 教科書または復習プリントを参考として復習に努めるようにすること。
使用教材	生理学 改訂第4版 彼末一之 編集（南江堂）/ パワーポイント
留意点 備 考	必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		神経の基本的機能 1	神経組織【神経組織の構成要素・ニューロンの形態】 ニューロンの形態を図示して説明することができる。
2		神経の基本的機能 2	活動電位【静止膜電位・イオンチャネル・活動電位】 静止膜電位と活動電位の発生について説明できる。
3		神経の基本的機能 3	伝導と伝達【伝導の原則・神経線維の分類・シナプス伝達の特徴・化学伝達物質】 伝導の原則とシナプス伝達の特徴について説明できる。
4		神経系の構成と機能 1	神経系の構成【神経系の分類・脊髄の構造と機能】 神経系を構造・機能で分類することができる。
5		神経系の構成と機能 2	脳神経【脳神経の名称・構成・機能】 脳神経の番号と名称を挙げることができる。
6		神経系の構成と機能 3	自律神経系【自律神経とは・伝達物質・機能】 交感神経と副交感神経の働きを説明できる。
7		神経系の構成と機能 4	自律神経系【自律神経反射】 自律神経反射について説明できる。
8		神経系の構成と機能 5	運動機能【運動単位・脊髄の運動機能】 運動単位を説明し、伸張反射の反射弓を図示できる。
9		神経系の構成と機能 6	運動機能【姿勢反射・大脳皮質の運動機能】 一次運動野の局在、錐体路について図示して説明することができる。
10		神経系の構成と機能 7	運動機能の調節【運動協調・運動学習】 小脳と大脳基底核の機能を説明できる。
11		神経系の構成と機能 8	高次脳機能【機能局在・言語機能・脳波】 機能局在と言語中枢について説明できる。
12		神経系の構成と機能 9	高次脳機能【睡眠・学習と記憶】 レム睡眠で見られる現象を挙げることができる。
13		小テスト	中間テスト
14		前期学習内容の応用	TBL【神経系疾患について】 前期学習内容から神経系疾患を考えることができる。
15		前期内容まとめ	前期講義内容の補填

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	牧之瀬 泰佑	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）及びこれらに伴う指導管理と外傷予防を学ぶ。柔道整復師本来の治療法のみならず現代的医療にかかわる外傷に対する予防法や初期処置を学ぶ。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解する。 各組織の損傷から治癒に至る経過の理解をする。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		自己紹介（自分の経験した怪我）	柔道整復師の仕事がマッサージではなく、外傷を治す仕事であることを認識する
2		関節の構造と機能	関節構造を知り、骨の連結について理解する。
3		関節の構造と機能	関節構造を知り、骨の連結について理解する。また機能を把握する
4		概説・損傷する組織 1	各組織ごとの損傷から治癒へ至る内容を理解する
5		概説・損傷する組織 2	各組織ごとの損傷から治癒へ至る内容を理解する
6		筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する
7		筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する
8		腱の損傷 1	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する
9		腱の損傷 2	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する
10		末梢神経損傷 1	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解する
11		末梢神経損傷 2	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解する
12		血管・リンパ系・皮膚損傷 1	血管・リンパ系・皮膚の損傷から治癒へ至る内容を理解する
13		血管・リンパ系・皮膚損傷 2	血管・リンパ系・皮膚の損傷から治癒へ至る内容を理解する
14		試験対策	前期の範囲を振り返り前期試験に自信を持って挑めるようにする
15		試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学総論（骨折について）を学ぶ。
到達目標	骨折の総論部分を人に説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の教科書を読み込んでおく。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第6版
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	小テストを1回実施する。【期末試験90%、小テスト10%】
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	人体に加わる力	柔道整復師への到達目標（オリエンテーション）を行い各自設定させる。 人体に加わる力について説明することができる。	
2	損傷時に加わる力	損傷時に加わる力について説明できるようになる。	
3	骨の形態と機能	骨の形態と機能について説明できるようになる。	
4	骨損傷の概要	骨損傷の概要について説明できるようになる。	
5	骨折の分類	骨折の分類について説明できるようになる。	
6	骨折の症状	骨折の症状について説明できるようになる。	
7	骨折の合併症	骨折の合併症（併発症・続発症・後遺症）について説明できるようになる。	
8	小児骨折	小児骨折の特徴について説明できるようになる。	
9	高齢者骨折	高齢者骨折の特徴について説明できるようになる。	
10	小テスト	前回までの範囲の理解度を確認し、もう一度知識の認識を行う。	
11	骨折の治癒過程	骨折の治癒過程について説明できるようになる。	
12	骨折の予後	骨折の予後について説明できるようになる。	
13	骨折の治癒に影響を与える因子	骨折の治癒に影響を与える因子を説明できるようになる。	
14	全範囲の復習	全範囲の理解度を確認し、試験に向けた対策を行う。	
15	試験解説	骨折総論で知っておくべき知識の再確認、ポイントを説明できるようになる。	

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学総論（骨折について）を学ぶ。
到達目標	骨折の総論部分を人に説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の教科書を読み込んでおく。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第6版
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	小テストを1回実施する。【期末試験90%、小テスト10%】
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		人体に加わる力	柔道整復師への到達目標（オリエンテーション）を行い各自設定させる。 人体に加わる力について説明することができる。
2		損傷時に加わる力	損傷時に加わる力について説明できるようになる。
3		骨の形態と機能	骨の形態と機能について説明できるようになる。
4		骨損傷の概要	骨損傷の概要について説明できるようになる。
5		骨折の分類	骨折の分類について説明できるようになる。
6		骨折の症状	骨折の症状について説明できるようになる。
7		骨折の合併症	骨折の合併症（併発症・続発症・後遺症）について説明できるようになる。
8		小児骨折	小児骨折の特徴について説明できるようになる。
9		高齢者骨折	高齢者骨折の特徴について説明できるようになる。
10		小テスト	前回までの範囲の理解度を確認し、もう一度知識の認識を行う。
11		骨折の治癒過程	骨折の治癒過程について説明できるようになる。
12		骨折の予後	骨折の予後について説明できるようになる。
13		骨折の治癒に影響を与える因子	骨折の治癒に影響を与える因子を説明できるようになる。
14		全範囲の復習	全範囲の理解度を確認し、試験に向けた対策を行う。
15		試験解説	骨折総論で知っておくべき知識の再確認、ポイントを説明できるようになる。

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）及びこれらに伴う指導管理と外傷予防を学ぶ。柔道整復師本来の治療法のみならず現代的医療にかかわる外傷に対する予防法や初期処置を学ぶ。
到達目標	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）に対する基礎的知識の習得ができる。臨床現場において指導管理及び初期処置、外傷予防の理念を理解し活用できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復師の沿革	柔道整復師の歴史、業務範囲についての説明ができる。
2		解剖学用語、器官の定義	人体における位置や方向についての用語を説明できる。器官の分類、定義の説明ができる。
3		治療法 1	骨折の整復法について整復時の配慮の理解と説明ができる。
4		治療法 2	骨折の整復法について整復法の分類、適応、不適応の理解と説明ができる。
5		治療法 3	脱臼の整復法について整復法の分類、適応、不適応の理解と説明ができる。初期処置（RICE）の意味の理解、説明ができる。
6		治療法 4	固定法についての配慮、目的、範囲、期間、肢位等の理解と説明ができる。
7		治療法 5	固定法についての指導管理の理解と説明ができる。
8		治療法 6	手技療法の分類、目的、配慮、禁忌についての理解、説明ができる。基本的手技が行える。
9		治療法 7	運動療法の配慮、基本型について説明できる。
10		治療法 8	運動療法の種類、応用、禁忌についての理解説明ができる。
11		指導管理	外傷患者に対する日常生活動作、患者環境に対する指導管理の内容の理解と説明ができる。
12		外傷予防 1	外傷予防の分類と外傷予防の第 1 段階の意味、内容が理解説明できる。
13		外傷予防 2	外傷予防の第 2 段階の意味、内容（早期発見、早期治療）が理解説明できる。
14		外傷予防 3	外傷予防の第 3 段階の意味、内容（悪化防止など）が理解説明できる。
15		試験解説	前期試験解説
16			

科目名 【英】	柔整解剖 A Anatomy of Judo Therapy			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4. 5

担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて勤務。現在に至る。
------	--------	-------	------------------------------

学習内容	骨の基本的構造、骨の名称、骨の各部の名称、各関節の構造を学ぶ。
到達目標	骨の名称、各部の名称を覚え、体表からその位置を理解し触知することができるレベルに到達し、筋の理解に役立つようにする。

準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	授業毎に小テストを実施。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。
------	-----------------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		骨 1	総論（骨の役割・形状・表面に関する用語） 各論（鎖骨） 長骨・短骨など違いを理解し、鎖骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
2		骨 2	総論（骨の構造・成長） 各論（肩甲骨） 骨の構造を理解し、肩甲骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
3		骨 3	総論（骨の連結） 各論（上腕骨） 骨の成長や縫合の理解し、上腕骨の名称を知り体表からの触知できるようになる。
4		骨 4	総論（関節の種類） 各論（橈骨・尺骨） 関節の構造・種類の理解し、橈・尺骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
5		骨 5	各論（手の骨・胸骨） 手根骨の名称と位置関係を知り体表から触知ができ、肋骨切痕と胸骨角の関係を説明できるようになる。
6		骨 6・関節 1	各論（肋骨・上肢の関節） 真肋と仮肋と浮遊肋の違いと上肢の関節の名称とそれに付属する靱帯・関節の動き知り説明できるようになる。
7		骨 7	各論（寛骨・大腿骨・膝蓋骨） 腸骨・坐骨・恥骨・大腿骨の名称の理解と体表から触知できるようになる。
8		骨 8	各論（脛骨・腓骨・足の骨） 脛骨・腓骨・足の骨の名称の理解と体表から触知でき、足根骨の位置を説明できるようになる。
9		骨 9	各論（椎骨の基本的構造・頸椎・胸椎） 椎骨の基本形・頸椎の特別型・胸椎の構造の理解し説明できるようになる。
10		骨 10	各論（腰椎・仙骨・頭蓋骨の分類・側頭骨・後頭骨） 腰椎・仙骨の構造や頭蓋骨の有無、側頭骨・後頭骨の名称の理解し説明できるようになる。
11		骨 11・関節 2	各論（頭蓋骨・骨盤） 頭蓋骨の名称・分類（有対と無対）や眼窩を構成する骨と泉門や分界線の理解し説明できるようになる。
12		関節 3	各論（股関節から膝関節） 股・膝関節の名称とそれに付属する靱帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。
13		関節 4	各論（膝関節から足関節） 膝・足関節の名称とそれに付属する靱帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。
14		関節 5	各論（脊柱の連結・胸郭の連結） 脊柱と頭蓋、胸郭の関節の名称とそれに付属する靱帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。
15		体表解剖・筋	体表解剖P275～280：体表から骨の隆起、突起等を触知できるようになる。 骨格筋の総論：起始・停止・動きの理解し説明できるようになる。
16			

科目名 【英】	柔道 1 Judo 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3. 4

担当教員	坂本 美和子	実務者経験	
------	--------	-------	--

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のＴシャツ
留意点 備 考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		自己紹介と受講のきまり	自己紹介と授業を受けるための心構え、受講の決まりを把握する。
2		柔道衣の着方と掃除方法	きちんとした柔道衣を着る方法を学び、掃除の方法を学び、出来るようになる。
3		礼法と受身	立礼・座礼の方法を知る。受身を学び、把握する。後ろ受身が出来るようになる。
4		礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。後ろ受身、長座からの受身、中腰からの受身が出来るようになる。
5		礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。後ろ受身、長座からの受身、中腰からの受身、二人組で受身が出来るようになる。
6		礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。長座からの受身、中腰からの受身、二人組で受身の復習の後、横受身を学ぶ。
7		礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。二人組で受身、横受身の復習後、移動後ろ受身・横受身が出来るようになる。
8		礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。横受身、移動後・横受身復習後、前回り受身の方法を学び把握する。
9		礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。移動後・横受身、前回り受身の回転が出来るようになる。
10		礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、組み方、動き方、さばき方を学び把握する。
11		礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、支釣込足を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。
12		礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、大腰を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。
13		礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、一本背負投を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。
14		礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。試験の方法を把握し・練習し、試験が受かるようにする。
15		試験の解説と立技	立礼・座礼の方法を復習する。試験の解説後、立技の乱取り2分×3人し、柔道の楽しさと苦しさを学ぶ。

科目名 【英】	栄養学 Nutrition			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3. 4

担当教員	前田 美紀子	実務者経験	1989年8月～1998年4月病院に所属。2000年4～10月・2001年10月～2003年4月給食委託会社に所属。栄養士・管理栄養士業務を行う。
------	--------	-------	---

学習内容	(1) 人と社会の健康の維持・増進に役立つ栄養学の基礎知識を学ぶ。 (2) 疾病の予防・治療に役立つリハビリテーション栄養の基礎知識を学ぶ。 (3) スポーツ選手の世代別の健康、また、競技力の向上に対応できる栄養学の基礎知識を学ぶ。		
到達目標	(1) 正しい食生活を科学的に理解し、人と社会の健康の維持・増進に対応できるレベルに到達する。	(2) リハビリテーション栄養の知識を活用し、疾病の予防・治療に対応できるレベルに到達する。	(3) 実際にスポーツ選手の栄養サポートに対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・解剖生理学との関連を復習する。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	副教材として生理学の教科書を参考書として活用することが望ましい。

成績評価	講義テキスト・課題プリントの提出。期末試験80%＋講義テキスト10%＋課題プリント10%
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	基礎栄養学1	人体の成り立ちについて説明ができる 栄養と栄養素の違い、栄養素の分類と働きについて説明ができる	
2	基礎栄養学2	日本人の食事摂取基準2020年版の概要について説明ができる 炭水化物の分類と機能について説明ができる	
3	基礎栄養学3	脂質の分類と機能について説明ができる	
4	基礎栄養学4	たんぱく質の分類と機能について説明ができる	
5	基礎栄養学5	ビタミンの分類と機能について説明ができる	
6	基礎栄養学6	ミネラル（無機質）の分類と機能について説明ができる	
7	基礎栄養学7	水分・その他の成分・ホルモンの機能について説明ができる 栄養素の消化・吸収・代謝について説明ができる	
8	リハビリテーション 栄養学1	リハビリテーション栄養の概要について説明ができる 生活習慣病の予防と対策について説明ができる	
9	リハビリテーション 栄養学2	高齢期の運動障害の予防と対策について説明ができる	
10	スポーツ栄養学1	スポーツ選手の基本的な栄養摂取の考え方が説明できる スポーツ選手のセルフマネジメントについて説明ができる	
11	スポーツ栄養学2	スポーツ選手のエネルギー消費と補給について説明ができる スポーツ選手のサプリメントの活用・ドーピングの危険性について説明ができる	ス
12	スポーツ栄養学3	スポーツ選手の熱中症予防と水分補給について説明ができる スポーツ障害の予防と改善について説明ができる	
13	スポーツ栄養学4	スポーツ選手の試合スケジュールに合わせた栄養管理と食生活について説明ができる	
14	スポーツ栄養学5	スポーツ選手の目的別の栄養管理について説明ができる	
15	試験解説	試験解説	
16			

科目名 【英】	生理学 1 Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	橘 吉寿	実務者経験	歯科医師、歯科医院で実務経験を積む
------	------	-------	-------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学1では、呼吸・循環など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原則を理解することを目指す

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	生理学 改訂第3版 (医歯薬出版)
留意点 備 考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	生理学1	生理学概論	生理学とは何か・ホメオスタシスとは何かを説明することができる。
2	生理学2	細胞の構成要素を知る 核の構造・細胞小器官について説明することができる。	
3	生理学3	細胞の基本的な機能を知る 細胞膜の機能・細胞内外における分子・イオンの流れを説明することができる。	
4	生理学4	血液の組成と造血機構 血液の構成要素とその成り立ちを説明することができる。	
5	生理学5	血液型・血液凝固・免疫のしくみ 血液の凝固機構、血液型のしくみ、免疫のしくみを説明することができる。	
6	生理学6	心臓の構造・心筋の基本的性質1 心臓の構造について説明することができる。	
7	生理学7	心筋の基本的性質2 心筋の収縮・伝導系について説明することができる。	
8	生理学8	心電図・不整脈について 心電図のしくみ・不整脈について説明することができる。	
9	生理学9	血管の構造と働き 血管の構造・機能と血圧の成り立ちについて説明することができる。	
10	生理学10	局所循環とリンパ・脳脊髄液について 局所血液循環、リンパ・脳脊髄液の組成・機能について説明することができる。	
11	生理学11	循環の調節 血圧のしくみ・制御機構について説明することができる。	
12	生理学12	呼吸器の構造・換気のしくみ 呼吸器の構成要素・換気メカニズムについて説明することができる。	
13	生理学13	ガス交換のしくみ 呼吸器ならびに血液におけるガス交換のしくみについて説明することができる。	
14	生理学14	呼吸調節機構 呼吸調節機構を説明することができる。	
15	試験解説	試験の振りかえり	

科目名 【英】	解剖学1 Anatomy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	1. 2

担当教員	柴田 雅朗	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	人体の正常構造を学ぶ。まず解剖学を学ぶ上での基礎的事項を学習し、脈管系、内臓系へと知識を深めてゆく。
到達目標	自らの言葉で人体の脈管系・内臓系の種類と仕組みを語ることが出来る。

準備学習 時間外学習	学んだ箇所の復習が必要
使用教材	解剖学 改訂第2版 (医歯薬出版)
留意点 備 考	板書で図を描きますので、色鉛筆やカラーマーカーなどの色づけ出来る筆記用具を持参し、速やかにノート出来るよう心がける。

成績評価	筆記試験 (100%)
------	-------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		解剖学概論 1	【解剖学的用語と細胞】 基本的な解剖学用語と細胞の構造（細胞内小器官）・体細胞分裂が説明できる。
2		解剖学概論 2	【上皮、支持組織、筋組織】 上皮の種類と構成する器官が説明でき、支持組織とは何か、筋の種類とその構造が説明できる。
3		解剖学概論 3	【人体の発生、三層性胚盤】 染色体や減数分裂など発生に関する基本的事項が説明できる。
4		脈管系 1	【脈管系の総論、肺循環・体循環、心臓の位置と形態】 脈管系を理解する基本的事項が説明できる。心臓の位置や表面からみる名称が言える。
5		脈管系 2	【心臓の弁、心臓壁の構造、刺激伝導系】 房室弁および心臓壁の構造・名称が説明でき、刺激伝導系について説明できる。
6		脈管系 3	【冠状動脈、冠状静脈洞、心膜、心臓の神経】 冠状動脈の各名称や冠状静脈洞が説明でき、心膜の構造を言える。
7		脈管系 4	【上行大動脈・大動脈弓・下行大動脈、総頸動脈（内・外頸動脈）、ウイリス動脈輪】 各動脈の主な枝の名称が言え、ウイリス動脈輪が説明できる。
8		脈管系 5	【鎖骨下動脈とその枝、腋窩動脈とその枝、上腕動脈・橈骨動脈・尺骨動脈】 鎖骨下動脈・腋窩動脈とそれらの枝の名称が言え、上腕動脈～橈骨・尺骨動脈～浅・深手掌動脈弓が説明できる。
9		脈管系 6	【胸大動脈の枝、腹大動脈の枝、総腸骨動脈（内・外腸骨動脈）】 胸大動脈・腹大動脈・内腸骨動脈の各枝と分布臓器が言える。
10		脈管系 7	【下肢の動脈、静脈系・奇静脈系、胎児循環、リンパ系】 下肢の動脈、全身の静脈系と奇静脈系について理解できる。胎児循環やリンパ系の各器官の特徴が説明できる。
11		内臓系 1	【消化器系（口腔、唾液腺）、消化管の一般構造、消化器系（食道～大腸）】 消化管の一般構造が説明でき、消化器系（口腔～大腸）の特徴が言える。
12		内臓系 2	【消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）、腹膜、呼吸器系（鼻腔～気管支）】 消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）の特徴が言え、腹膜について説明できる。呼吸器系（鼻腔～気管支）の特徴が言える。
13		内臓系 3	【呼吸器系（肺）、泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）】 肺の構造、血液空気関門について説明できる。泌尿器系の臓器について特徴が言える。
14		内臓系 4	【男性生殖器、女性生殖器】 男性・女性生殖器について特徴が言える。卵巣と子宮粘膜の周期的変化とホルモン関係が説明できる。
15		総復習	【総復習のため、国家試験方式で練習問題を解答、解説】 自分の言葉で練習問題を解説できる。

科目名 【英】	コンディショニングトレーナー講座2 Course of Conditioning Trainer Skill 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	1.2

担当教員	小西 達也	実務者経験	1998～2004整形外科・整骨院勤務 2005から開業（評価・施術・柔道整復術・リハビリテーション指導）スポーツ現場（陸上競技）多
------	-------	-------	--

学習内容	「人に見本を見せて、伝える」を出来るように、様々なトレーニングを学ぶ。
到達目標	医療人として患者や選手に対応出来るように、まずは自分自身が基本的なトレーニング方法の説明ができ、実演出来るようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・関節・筋肉名）生理学（体温・神経・呼吸）を読んでおく
使用教材	配布プリント 板書 口頭説明
留意点 備 考	副教材として「解剖学」「生理学」「運動学」を用意しておく 他に「図解四肢と脊椎の診かた」「肉単」「SAQトレーニングDVDブック」

成績評価	実技１００％ 筆記試験１００％ である どちらも合格することが必要
------	-----------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	授業ガイダンス	後期の授業の流れについて説明できる。	
2	足関節捻挫 1	足関節捻挫について説明できる。	
3	足関節捻挫 2	足関節捻挫のリハビリテーションについて説明できる。	
4	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームについて説明できる。	
5	姿勢不良腰痛 1	スポーツ、日常生活で常に起こしやすい腰痛について説明できる。	
6	姿勢不良腰痛 2	腰部のリハビリテーションについて説明できる。	
7	ストレッチング 指導 1	下肢のセルフストレッチングについて説明できる。	
8	ストレッチング 指導 2	上肢、体幹のセルフストレッチングについて説明できる。	
9	復習	足関節捻挫・姿勢不良腰痛・ロコモティブシンドロームについて説明できる。	
10	復習	足関節捻挫・姿勢不良腰痛・ロコモティブシンドロームについて説明できる。	
11	ダイナミックフレキシビリティ	ダイナミックフレキシビリティについて説明できる。	
12	ラダートレーニング	ラダートレーニングについて説明できる。	
13	SAQトレーニング	SAQトレーニングについて説明できる。	
14	まとめ	後期試験に向けて全内容について説明できる。	
15	総括	授業の振り返りを行い、後期の内容を説明することができる。	

科目名 【英】	基礎医学講座 2 Course of Basic Medicine 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	1. 2

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復師として必要な基礎知識を学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるように医学を学ぶ上で必要な基礎知識について説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書をしっかり読んで復習しておく。
使用教材	教科書『解剖学』、教科書『生理学』、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		呼吸器解剖	鼻～喉頭までの解剖に関して説明出来るようになる。
2		呼吸器解剖	気管～肺までの解剖に関して説明出来るようになる。
3		呼吸器生理	ガス交換に関して説明出来るようになる。
4		呼吸器生理	酸素解離曲線に関して説明出来るようになる。
5		呼吸器解剖生理	化学受容器反射、縦隔・胸膜に関して説明出来るようになる。
6		神経解剖	神経の基本構造及び脳に関して説明出来るようになる。
7		神経解剖	大脳～間脳に関して説明出来るようになる。
8		神経解剖	脳幹に関して説明出来るようになる。
9		神経解剖	脊髄及び伝導路に関して説明出来るようになる。
10		神経解剖	伝導路に関して説明出来るようになる。
11		神経解剖	ブラウンセカール、脳神経（Ⅰ～Ⅲ）に関して説明出来るようになる。
12		神経解剖	脳神経（Ⅳ～Ⅶ）に関して説明出来るようになる。
13		神経解剖	脳神経（Ⅷ～Ⅻ）に関して説明出来るようになる。
14		まとめ	後期の履修内容に関して説明出来るようになる。
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3・4

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復学各論を体幹を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。
到達目標	臨床現場でよく遭遇する骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学・理論編を読み・前回分を復習することが望ましい
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	鎖骨骨折 1	解剖、概説、発生機序、転位、症状を理解する。	
2	鎖骨骨折 2	合併症、整復法、固定法、後療法、後遺症を理解する。	
3	鎖骨脱臼 1	概説、胸鎖関節脱臼を理解する	
4	鎖骨脱臼 2	肩鎖関節脱臼 症状や固定法の理解。	
5	頭部・顔面の骨折 1	解剖、頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折を理解する	
6	頭部・顔面の骨折 2	鼻骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折、下顎骨骨折 それぞれの骨折の特徴の理解。	
7	顎関節脱臼 1	解剖、概説、前方脱臼 顎関節の構造、付着する筋を理解する。	
8	顎関節脱臼 2	後方脱臼、側方脱臼 前方脱臼との違い理解。	
9	頭部・顔面の 軟部組織損傷	打撲、顎関節症、顎関節捻挫 顎関節症の分類と特徴の理解。	
10	頚椎の骨折	解剖、頚椎の骨折 頚椎・胸椎・腰椎の骨折の理解。	
11	頚椎の脱臼	頚椎の脱臼および脱臼骨折 頚椎の骨折および脱臼の理解。	
12	頸部の 軟部組織損傷 1	むちうち損傷、胸郭出口症候群、寝違え むちうち損傷および胸郭出口損傷の分類を覚え理解する。	
13	頸部の 軟部組織損傷 2	頸部で注意すべき疾患 整形外科領域の疾患の理解。	
14	口頭試問	基礎各論 1 で学習した項目の口頭試問を行い、合格する。	
15	試験解説	前期試験解説	
16			

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論2 Clinical Judo Therapy Basic2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩甲骨骨折①	肩関節部の筋肉などの構造、肩甲骨骨折の分類について説明できる。
2		肩甲骨骨折②	肩甲骨の各骨折の症状などの特徴について説明できる。
3		上腕骨骨折①	解剖頸、骨頭、大結節、小結節の骨折について説明できる。
4		上腕骨骨折②	近位骨端線離開、外科頸骨折について説明できる。
5		上腕骨骨折③	外科頸骨折について説明できる。
6		肩関節脱臼①	前方脱臼、後方脱臼について説明できる。
7		肩関節脱臼②	下方脱臼、上方脱臼、反復性肩関節脱臼について説明できる。
8		肩関節脱臼実技	整復法（ゼロポジション、スティムソンなど）を行うことができる。
9		肩関節部の軟部組織 損傷①	筋・腱損傷（腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷）について説明できる。
10		肩関節部の軟部組織 損傷②	スポーツ損傷（ベネット損傷・SLAP損傷）について説明できる。
11		肩関節部の軟部組織 損傷③	スポーツ損傷（肩峰下インピンジメント症候群・リトルリーガー肩）について説明できる。
12		肩関節部の軟部組織 損傷④	不安定症、末梢神経障害について説明できる。
13		肩関節部の軟部組織 損傷⑤	その他の疾患（五十肩など）や注意すべき疾患について説明できる。
14		口頭試問	口頭により肩部の障害について説明できる。
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論3 Clinical Judo Therapy Basic3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	牧之瀬 泰祐	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を胸・背部、腰部、上腕部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		胸・背部の損傷	胸・背部の解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状について説明できる。
2		胸部の骨折（肋骨・胸骨）	胸部の骨折の発生機序・症状について説明できる。
3		胸椎の骨折	胸椎の骨折の発生機序・症状について説明できる。
4		胸椎の脱臼	胸椎の脱臼の発生機序・症状について説明できる。
5		その他の疾患について	その他の疾患について説明できる。
6		注意すべき疾患について	注意すべき疾患について説明できる。
7		腰部の損傷	腰部の損傷について説明できる。
8		腰椎の骨折	腰椎の骨折について説明できる。
9		腰椎の脱臼	腰椎の脱臼について説明できる。
10		腰部の軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる。
11		上腕部の損傷（解剖と機能）	上腕部の損傷について説明できる。
12		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
13		上腕部の軟部組織損傷	上腕部の軟部組織損傷について説明できる。
14		口頭試問	口頭により胸・背部、腰部、上腕部の障害について説明できる。
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 4 Clinical Judo Therapy Basic			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	1. 2

担当教員	赤井 宝	実務者経験	2015年4月～2020年1月まで整形外科に所属し、機能回復訓練および整復、固定を行う。
------	------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を骨盤部、股関節部、大腿部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場および柔道整復師の国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	股関節周囲の解剖の予習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。 4回目、7回目、11回目、14回目の授業開始時に小テストを実施する。

成績評価	期末試験80%＋小テスト10%＋平常点10%で評価する。
------	------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		骨盤部の損傷	骨盤周辺の構造と機能について説明できる。
2		骨盤部骨折	骨盤単独骨折について説明できる。
3		骨盤部骨折	骨盤骨輪骨折について説明できる。
4		股関節部の損傷、大腿骨近位端部骨折	股関節部の損傷、大腿骨近位端部骨折について説明できる。
5		大腿骨近位端部骨折、股関節脱臼	大腿骨近位端部骨折、股関節脱臼（後方脱臼）について説明できる。
6		股関節脱臼	股関節脱臼（前方脱臼、中心性脱臼）について説明できる。
7		股関節の軟部組織損傷	鼠径部痛症候群について説明できる。
8		股関節の軟部組織損傷	股関節唇損傷、弾発股について説明できる。
9		股関節の軟部組織損傷	梨状筋症候群、股関節の拘縮について説明できる。
10		乳幼児、思春期にみられる疾患	乳幼児、思春期にみられる疾患について説明できる。
11		大腿骨頭壊死症、変形性股関節症	大腿骨頭壊死症、変形性股関節症について説明できる。
12		大腿部の損傷、大腿骨骨幹部骨折	大腿部の構造と機能、大腿骨骨幹部骨折について説明できる。
13		大腿部の軟部組織損傷	大腿部打撲、大腿部の肉離れ、大腿部骨化性筋炎について説明できる。
14		口頭試問	口頭で骨盤部、股関節部、大腿部の障害について説明できる。
15		試験解説	後期試験の解説
16			

科目名 【英】	柔整基礎講座 2 Course of Basic Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	1. 2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師に必要な解剖生理の基本的な知識を取得する。
到達目標	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第3版（南江堂）
留意点 備 考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化器	消化器の解剖学的な名称を知る。全体像を理解し、基本構造を説明できるようになる。
2		消化器	舌の支配神経、胃、金運動について知り、説明できるようになる。
3		消化器	小腸の解剖学的な名称、働き、特徴を知り、説明できるようになる。
4		消化器、消化腺	結腸の特徴、消化液の分泌を知り、説明できるようになる。
5		消化と栄養素	栄養素の基本的なところを知り、消化の流れ、消化酵素について説明できるようになる。
6		肝・胆道系	肝臓・胆嚢の解剖学的な特徴を知り、説明できる。
7		肝・胆道系	胆嚢・肝臓のはたらき、胆汁の作用について知り、説明できる。
8		栄養と代謝	代謝の基本を知り、説明できる。
9		栄養と代謝	エネルギー代謝、基礎代謝について知り、説明できる。
10		泌尿器	腎の構造について知り、説明できる。
11		泌尿器	尿道の男女差、機能について知り説明できる。
12		泌尿器	腎機能（再吸収・分泌について）知り、説明できる。
13		泌尿器	尿細管の再吸収・分泌について知る。また再吸収・分泌に関わるホルモンを知り説明できるようになる。
14		泌尿器	排尿反射について知り、説明できるようになる。
15		総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。

科目名 【英】	柔整生理B Physiology of Judo Therapy			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院で実務経験をえる
------	------	-------	---------------------------------------

学習内容	正常な人体機能（主に運動器系に関する）を学び、柔道整復について考える。
到達目標	1. 筋収縮について説明できる。 2. 感覚のメカニズムを説明することができる。 3. 性周期、カルシウム調節に関わるホルモンと身体の変化について説明できる。

準備学習 時間外学習	授業終了時に次の授業範囲を伝えるので余裕があれば予習をしておくこと。 教科書または復習プリントを参考として復習に努めるようにすること。
使用教材	生理学 改訂第4版 彼末一之 編集（南江堂）/ パワーポイント
留意点 備 考	必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋生理 1	筋収縮【筋組織と骨格筋収縮のしくみ】 筋組織について説明できる。
2		筋生理 2	筋収縮【興奮収縮連関】 興奮収縮連関を説明できる。
3		筋生理 3	筋収縮【長さ-張力の関係・筋収縮のエネルギー】 エネルギー供給系を説明できる。
4		筋生理 4	筋収縮【平滑筋・心筋】 平滑筋と心筋の特徴を説明できる。
5		感覚 1	総論【感覚の種類と一般的性質】 感覚を分類できる。
6		感覚 2	体性感覚【痛みのメカニズム】 痛みの分類を説明できる。
7		感覚 3	体性感覚【表在感覚・深部感覚・内臓感覚】 表在感覚と深部感覚の伝導路の違いを知る
8		感覚 4	特殊感覚【嗅覚・味覚】 受容器を挙げることができる。
9		感覚 5	特殊感覚【視覚】 眼球の構造を説明できる。
10		感覚 6	特殊感覚【聴覚・前庭感覚】 音の伝達について説明できる。
11		生殖 1	生殖【性決定と性分化 男性生殖 女性生殖】 性決定、精子形成と卵巣・月経周期について説明できる。
12		生殖 2	女性生殖【妊娠と分娩、乳汁分泌】 排卵から着床までの過程を説明できる。
13		骨生理 1	骨組織【カルシウム代謝】 骨代謝に関わるホルモンを挙げることができる。
14		骨生理 2	骨代謝【カルシウム調節・骨疾患】 カルシウム調節について説明できる。
15		後期内容まとめ	後期講義内容の補填

科目名 【英】	柔整解剖 B Anatomy of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院勤務。現在に至る。
------	--------	-------	----------------------------

学習内容	筋の名称、付着、走行、作用、支配神経を学ぶ
到達目標	筋の名称、走行、付着、支配神経を答え、体表から触知することができるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	授業毎に小テストを実施。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。
------	-----------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋 1	上肢帯の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
2		筋 2	上腕の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
3		筋 3	前腕の筋① 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
4		筋 4	前腕の筋② 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
5		筋 5	手の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
6		筋 6	下肢帯の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
7		筋 7	大腿の筋① 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
8		筋 8	大腿の筋② 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
9		筋 9	下腿の筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
10		筋 1 0	頭部の筋① 咀嚼筋 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
11		筋 1 1	体幹の筋 胸部 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
12		筋 1 2	体幹の筋 腹部 起始・停止・作用・支配神経を答えることができる
13		体表解剖 1	頭蓋底 頭蓋の孔の名称を答えることができる
14		体表解剖 2	体表解剖 筋、脈拍を触知することができる
15		試験解説	総まとめ 映像解剖 後期範囲をまとめ、答えることができる

科目名 【英】	柔道 2 Judo 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3. 4

担当教員	坂本 美和子	実務者経験	
------	--------	-------	--

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のＴシャツ
留意点 備 考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		礼法と受身 1	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、袈裟固が出来るようになる。
2		礼法と受身 2	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、袈裟固が出来るようになる。
3		礼法と受身 3	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、横四方固が出来るようになる。
4		礼法と受身 4	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、縦四方固が出来るようになる。
5		礼法と受身 5	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、上四方固が出来るようになる。
6		礼法と受身 6	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技のルールについて説明することができる。
7		礼法と受身 7	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。
8		礼法と受身 8	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。
9		礼法と受身 9	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。
10		礼法と立技 1	礼法、移動受身、前回り受身、立技、連続技の為の大内刈が出来るようになる。
11		礼法と立技 2	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から大腰(釣腰)が出来るようになる。
12		礼法と立技 3	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から一本背負投が出来るようになる。
13		礼法と立技 4	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から大外刈が出来るようになる。
14		礼法と立技 5	後期試験の内容を把握、習得することが出来る。
15		試験の解説と立技	立礼・座礼の方法を復習する。試験の解説後、立技の乱取り2分×3人し、柔道の楽しさと苦しさ学ぶ。

科目名 【英】	物理療法学 Physical Therapy Equipment			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	1. 2

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	物理療法の分類を理解し、作用と原理を学ぶ。
到達目標	物理療法機具の禁忌と使用方法を説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	リハビリテーション医学の物理療法も参照。
使用教材	柔道整復理論 改訂第6版
留意点 備 考	

成績評価	100% 筆記試験
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		物理療法の分類	物理療法を分類し安全対策、禁忌を説明ができる。
2		主要な物理療法 1	低周波の効果、使用上の注意と禁忌が説明できる。
3		主要な物理療法 2	干渉波療法、温熱療法の効果と禁忌が説明できる。
4		主要な物理療法 3	ホットパック療法、パラフィン浴療法、局所浴の適応と禁忌が説明できる。
5		主要な物理療法 4	赤外線療法の効果、マイクロ波の使用上の注意・禁忌が説明できる。
6		主要な物理療法 5	超音波、光線療法（レーザー）の使用効果と禁忌が説明できる。
7		主要な物理療法 6	寒冷療法の効果、伝導冷却法、対流冷却法を説明できる
8		主要な物理療法 7	牽引療法の適応と効果、使用上の注意と禁忌が説明できる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 【英】	生理学 2 Physiology 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	橘 吉寿	実務者経験	歯科医師、歯科医院にて実務経験あり
------	------	-------	-------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学1では、消化・排泄など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原則を理解することを目標とする

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	教科書『生理学』改訂第3版（医歯薬出版）
留意点 備 考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化と吸収1	消化器の構成要素を知り、消化液の分泌機序について説明できる。
2		消化と吸収2	肝胆系を中心に消化・吸収のメカニズムについて説明できる。
3		栄養と代謝経路1	生体に必要な栄養素とエネルギー産生経路について説明できる。
4		栄養と代謝経路2	エネルギー産生経路について説明できる。
5		体温調節のしくみ1	体温の生理的意義について説明できる。
6		体温調節のしくみ2	体温調節機構とその異常について説明できる。
7		尿の生成と排泄1	腎臓の構造と機能について説明できる。
8		尿の生成と排泄2	糸球体ろ過ならびに尿細管での再吸収機構について説明できる。
9		尿の生成と排泄3	尿の排泄機構について説明できる。
10		内分泌総論	内分泌系の概要について説明できる。
11		内分泌各論1	視床下部・下垂体ホルモンについて説明できる。
12		内分泌各論2	甲状腺・副腎皮質ホルモンについて説明できる。
13		内分泌各論3	副腎髄質・膵臓ホルモンについて説明できる。
14		内分泌各論4	精巣・卵巣ホルモンについて説明できる。
15		試験解説	試験の振りかえり

科目名 【英】	社会福祉学 Social Welfare			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3. 4

担当教員	中川 るみ	実務者経験	京都府社会福祉協議会、大阪地方検察庁などにソーシャルワーカーとして勤務し、実務経験を得る。
------	-------	-------	---

学習内容	「人が人を助ける」という行為が、社会の制度として位置づけられたのは、数世紀前です。医療従事者の方々が日々の業務を通じて患者やその家族などからさまざまな相談を受けることが多くなりました。対人援助の基本姿勢や各制度の説明の必要性とともに、医療従事者には、特に高い人権意識が求められます。人権と制度を中心に学習します。
到達目標	人権と制度について理解し、柔道整復師としての心構えを身に着ける。

準備学習 時間外学習	
使用教材	コメディカルのための社会福祉概論（講談社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		社会福祉とは	わが国の人口問題と課題について考え、説明することができる。
2		社会福祉の歴史（１）	慈善事業の背景について考え、説明することができる。
3		社会福祉の歴史（２）	社会事業と貧困対策について考え、説明することができる。
4		社会福祉基礎構造改革	社会保障改革の理解について考え、説明することができる。
5		社会保険（１）	社会保険の種類について考え、説明することができる。
6		公的扶助	生活保護の現状について考え、説明することができる。
7		子ども福祉	子どもに関わる法制度について考え、説明することができる。
8		障害者福祉	障害者総合支援法と虐待防止について考え、説明することができる。
9		高齢者福祉（１）	高齢者を取り巻く状況について考え、説明することができる。
10		高齢者福祉（２）	高齢者を対象とした法制度について考え、説明することができる。
11		介護保険制度	制度の概要について考え、説明することができる。
12		社会保障制度（１）	医療保障について考え、説明することができる。
13		社会保障制度（２）	年金保障について考え、説明することができる。
14		社会保障制度（３）	雇用保険・労災保険について考え、説明することができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	臨床実習 1 Clinical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務
------	-------	-------	-----------------------

学習内容	大関節の評価を行い施術の基礎を学ぶ。
到達目標	柔道整復師学科に入って良かったと思えるようになり、次年度に向け 勉学の意欲をわかす。

準備学習 時間外学習	筋肉の理解が必要となるため起始停止作用は各自で理解する。
使用教材	プリント資料
留意点 備 考	抜き打ち小テストを実施

成績評価	授業評価、筆記テスト
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		臨床実習について	臨床実習の意義を理解する。また評価法に興味を持たす
2		SFMAについて	SFMA（評価法）の目的・ルールを覚える。
3		頸椎評価法	頸椎の評価を知る。
4		頸椎評価法	頸椎の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる
5		頸椎治療法	頸椎の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする
6		肩評価法	肩関節の評価を知る
7		肩評価法	肩関節の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる
8		肩治療法	肩関節の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする
9		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作評価を知る
10		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる
11		多分節屈曲治療法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする
12		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作評価を知る
13		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる
14		多分節伸展治療法	体幹の伸展動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする
15		筋肉テスト	筋肉名を問いかけて起始停止を答える。作用は自分で動作を行う
16		物理療法体験	電気療法、干渉波、SSP療法を体験し効果を理解する。

17		物理療法体験	温熱療法、ホットパック、パラフィン浴療法を体験し理解する。
18		手技療法の実際	各手技基本の形をマスターする。
19		物理療法体験	牽引療法 腰部牽引、頸部牽引を体験し効果を理解する。
20		手技療法の実際	腰部・下肢の手技ができるようになる。
21		物理療法体験	変換熱、マイクロ波、超音波、レーザー治療を体験し理解する。
22		手技療法の実際	頸部・上肢の手技ができるようになる。
23		整骨院業務	カルテ、保険証、レセプトの説明。業務範囲について改めて理解する。

科目名 【英】	解剖学 2 Anatomy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	1. 2

担当教員	柴田 雅朗	実務者経験	1999年4月～現在まで大阪医科大学医学部に所属 解剖学・組織学の講義、人体解剖に携わっている。
------	-------	-------	---

学習内容	人体の正常構造を学ぶ。まず解剖学を学ぶ上での基礎的事項を学習し、神経系、内分泌系、感覚器系へと知識を深めてゆく。
到達目標	人体の中枢神経系および末梢神経系の各部の名称と機能を理解し、自らの言葉で様々な伝導路について説明することが出来る。内分泌系および感覚器系の各部の名称と機能について説明することが出来る。

準備学習 時間外学習	学んだ箇所の復習が必要
使用教材	解剖学 改訂第2版 (医歯薬出版)
留意点 備 考	板書で図を描きますので、色鉛筆やカラーマーカーなどの色づけ出来る筆記用具を持参し、速やかにノート出来るよう心がける。

成績評価	筆記試験 (100%)
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経系 1	【1. 神経系の区分と特徴、神経組織、灰白質および白質 2. 中枢神経系の区分】 神経で用いる基礎的用語の意味を理解し、説明ができる。	
2	神経系 2	【1. 脳室系および髄膜と脳脊髄液 2. 大脳の形態と機能】 各脳室の名称と脳脊髄液の産生～排出まで説明できる。 大脳の代表的な溝と各葉、および機能局在を理解する。	
3	神経系 3	【脳の形態と機能】 間脳、中脳、橋および延髄の各部の名称と機能が言える。	
4	神経系 4	【1. 小脳の形態と機能 2. 脊髄の構造】 小脳と脊髄の各部の名称と機能が言える。	
5	上行性伝導路 1	【1. 脊髄視床路と三叉神経視床路 2. 後索路】 体性感覚の伝導路の名称、種類、経路が説明できる。	
6	上行性伝導路 2	【1. 視覚路 2. 聴覚路 3. 味覚路 4. 嗅覚路 5. 平衡覚の伝導路】 特殊感覚の伝導路の名称、種類、経路が説明できる。	
7	下行性伝導路	【1. 錐体路 2. 錐体外路】 下行性伝導路の種類と経路が説明できる。	
8	脳神経	【脳神経】 1 2 脳神経が言え、各脳神経の機能が説明できる。	
9	脊髄神経 1	【1. 各脊髄神経 2. 神経叢 3. デルマトーム】 各脊髄神経の名称、腕神経叢、腰神経叢および仙骨神経叢を構成している神経が説明できる。代表的デルマトームの脊椎の高さが言える。	
10	脊髄神経 2	【自律神経系】 交感神経と副交感神経の違いが説明できる。交感神経の走行パターンが言える。具体的な副交感神経の名称と神経節の名称、機能が説明できる。関連痛について理解する。	
11	感覚器系 1	【1. 外皮 2. 視覚器】 感覚器系 1 で習った器官の各部の名称と機能が言える。	
12	感覚器系 2	【1. 聴覚器および平衡器 2. 味覚器 3. 嗅覚器】 感覚器系 2 で習った器官の各部の名称と機能が言える。	
13	内分泌系	【内分泌】 各々の内分泌系臓器の各部の名称と機能が説明でき、分泌過剰や減少と疾患との関わりが理解できる。	
14	復習 1	【国試形式による練習問題とその解説】 自分の言葉で解説ができる。	
15	復習 2	【国試形式による練習問題とその解説】 自分の言葉で解説ができる。	